

『計量国語学』アーカイブ

<b>ID</b>	<b>KK300202</b>
<b>種別</b>	書評
<b>タイトル</b>	中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーション ハンドブック』くろしお出版
<b>Title</b>	The Handbook of Collocation of Function Words in Japanese
<b>著者</b>	李 在鎬
<b>Author</b>	LEE Jae-Ho
<b>掲載号</b>	30巻2号
<b>発行日</b>	2015年9月25日
<b>開始ページ</b>	98
<b>終了ページ</b>	103
<b>著作権者</b>	計量国語学会

書評

中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための  
文法コロケーションハンドブック』 くろしお出版

李 在鎬 (筑波大学)

1. 本書の特徴

本書は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」と7つの日本語教科書<sup>1</sup>を資料とし、初級向けの文法項目の使用実態をまとめた資料集である。「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を利用した資料集としては、Tono et al. (2013) などがすでに刊行されているが、類書に対する本書の特徴としては、次の点が挙げられる。1) 機能語に着目している点、2) コロケーションに対する記述を試みている点、3) 日本語教科書での使用実態を調査している点である。

まず、機能語の場合、内容語に比べ、機械処理による抽出が難しいとされており、これまで日本語教育分野でも、機能語に対する調査はあまり行われてこなかった。こうした現状に対して、本書は初級学習者にとって必要な基礎項目を網羅的に調査している点で、教育文法の研究者にとって貴重な資料集になるであろう。次に、記述手法において文法コロケーションという視点から精緻な調査を行っている点は評価に値する。一般にコロケーションと言えば、名詞と動詞、名詞と形容詞、名詞と名詞といった内容語に注目するものが多い(小野(他)(2009)参照)が、本書は格助詞や助動詞などの文法項目と内容語のコロケーションに注目しており、それを「文法コロケーション」と読んでいる。最後に、日本語教育分野では伝統的に教科書での導入状況が重要視されているが、本書はこのことにも配慮されており、教科書での導入状況、使用状況についても合わせて調査しているため、日本語教育に携わっている者にとっても付加価値の高いハンドブックであると言える。

2. 構成

本書は、庵(他)(2000)で取り上げられている93項目を見出し語にして、おおむね7つのセクションで記述している。

---

1 日本語教科書としては以下の7冊を取り上げている。

1) みんなの日本語初級, スリーエーネットワーク(1998): 初版

2) 新文化初級日本語, 文化外国語専門学校(2000): 初版

3) 初級日本語, 東京外国語大学留学生日本語教育センター(2010): 新装版初版

4) 新装版日本語初級, 東海大学留学生教育センター(2002): 第1版

5) 日本語初歩, 国際交流基金(2007): 改訂版(初版は1981)

6) 初級日本語げんき, The Japan Times(1999): First Edition

7) Situational Functional Japanese, 凡人社(1994): 第2版(初版は1992)

- 1) 基本的意味
- 2) コーパスおよび日本語教科書で前に来る動詞
- 3) 例文
- 4) ジャンル情報
- 5) 前後の形式
- 6) ピックアップ
- 7) 用法

見出し語によってセクションの構成は若干異なるが、おおむね 1)～3) は必須項目として記述されており、4) から 7) は必要に応じてオプション的に記述が加えられている。

まず、コア情報として 1) の「基本的意味」は、見出し語に対する基本情報が掲載されている。品詞情報や形態統語的な機能、さらには具体的な表現形式が示されている。次に、2) の「コーパスおよび日本語教科書で前に来る動詞」は、本書においてもっとも重視されているもので、文法コロケーションが記述されている。具体例として表 1 を示す。

表 1a: 「てしまう」の前に来る動詞  
(コーパス)

順位	動詞	出現数	%
1	なる	14,059	15.24%
2	する	3,496	3.79%
3	行く	1,685	1.83%
4	言う	1,445	1.57%
5	忘れる	1,257	1.36%
6	思う	1,121	1.22%
7	なくなる	1,115	1.21%
8	死ぬ	1,115	1.21%
9	消える	1,089	1.18%
10	出る	933	1.01%

※出現数=92,258

動詞 TOP10 のカバー率=29.61%

表 1b: 「てしまう」の前に来る動詞  
(教科書)

教科書に多い動詞	順位
やる	19 位
食べる	23 位
壊れる	40 位
なくす	44 位
(風邪を) ひく	45 位
書く	55 位
落とす	61 位
飲む	70 位
覚える	85 位
読む	128 位

表 1 には、「てしまう」の直前に出現する動詞の頻度と被覆率の% が並べられている。左側が「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」での使用状況であり、右側が日本語教科書での使用状況である。例えば、「～てしまう」の場合、全体のトークン頻度としては 92,258 例あり、そのうち、「なる+てしまう」の例が 14,059 例あり、その比率は  $14,059/92,258=15.24\%$  になる。そして、上位 10 位までの動詞のトークン頻度は 27,315 例であり、そのカバー率は  $27,315/92,258=29.61\%$  になる。次に日本語教科書については、その文法項目が導入されている課の「本文」「例文」「文型説明」に使われている動詞を集計しており、表 1 の左側に出ているもの以外のもので多い順に提示している。そして、その

動詞のコーパスでの使用順位も示している。この順位を見ることで教科書での提示状況を確認できる。この教科書での頻度を見ることで、日本語の教科書では必ずしも真正性のある表現を取り上げていないということが示唆される。

次に3)では、文法項目のコーパスでの用法を踏まえた例文が示されている。4)ではBCCWJにおける出現ジャンルの偏りがある場合に、それに対する補足説明がなされている。これは文法項目の使用文脈についての説明であり、正確なジャンルのデータを収録しているBCCWJだからこそ実現できた調査であり、言語使用の実態を知る上で非常に重要な記述であると言える。5)では、形態レベルの特徴が見られる場合、それを記述している。例えば、「にちがいない」に関して表2の分布を報告している。

表2:「にちがいない」の前の形

項目	出現数	%
た にちがいない	778	45.1%
る にちがいない	430	24.4%
ている にちがいない	195	11.4%
ない にちがいない	60	3.5%

表2では、「にちがいない」の前に接続する動詞が「た形」か「る形」か「ている形」か「ない形」かが頻度情報とともに提示されており、文法形式の導入における自然な表現を検討する上で、貴重な情報であると言える。最後に、6)のピックアップと7)の用法では記述文法の成果として明らかになったことをコーパス調査の結果と関連づけた記述がされており、現場の日本語教師にとって有用な情報であると言える。

### 3. 見出し語の例

本書で取り上げている見出し語は、(旧)『日本語能力試験出題基準』(凡人社 1994)に挙げられている項目で、日本語を勉強する上では、必須となる学習項目である。機能語であるゆえ、いずれの項目も日本語の文章で遭遇する確率の高い項目であると言える。本書で取り上げている項目を表3に示す。

表 3: 中俣 (2014) が取り上げている見出し語一覧

あいだ	続ける	なくて
う・よう	つもり	なくてもいい
うちに	てあげる	なければいけない, なければならない
お~する (謙讓語)	てある	なさい
お~になる (尊敬語)	ていく (時間的用法)	なら
終わる・終える	ていただく	にくい
か	ている	にちがいない
が	ているところだ	ね
かもしれない	ておく	のだ・のです
から	てから	ので
けど	てください	のに
ことがある	てくださる	ば
ことができる	てくる (時間的用法)	始める
ことにする	てくれる	はず
ことになる	でしょう	前・前に
させる・せる	てしまう	ましょう
し	てはいけない, てはいけません	ましょうか
ず・ずに	てほしい	ませんか
すぎる	てみる	まで・までに
そうだ (伝聞)	ても	みたいだ
そうだ (様態)	てもいい	やすい
た後・た後で	てもらう	やむ
たい	てやる	よ
たことがある, たことがない	と	ようだ
たほうがいい	と思う	ようにする
たまま	とき (~るとき・~たとき)	ようになる
ために (目的)	な	よね
たら	ないか	らしい
たり	ないで	られる・れる (受け身)
だろう	ないてください	形容詞 + て + 動詞
つつある	ながら	命令形

#### 4. 日本語教育の観点から

本書は、均衡コーパスである BCCWJ を利用した機能語のデータベースであると言えるが、この点を本書のタイトルでもある「日本語教育」という観点から評価した場合、次の2点において重要な意味を持つ。1つ目は、真正性のある文法学習に貢献している点、2つ目は、機能語に対する包括的な調査結果が網羅されている点である。

まず、1つ目の真正性のある文法教育については、2009年新しい日本語能力試験の実施によって課題遂行能力を重視した日本語教育、実際のコミュニケーションに貢献する日本語教育の必要性が今まで以上に強調されるようになった。この方向性において、均衡コーパスは、強力なツールになり得る。というのは、BCCWJ は、現代日本語の縮図になるもので、内容語または機能語がどのような文脈で使われているかを調べることができるため、生きた使用状況を見ることが出来る。従来、日本語教師が頭で考えてきた文法と必ずしも一致しないことが問題視されている中で、本書は重要な意味を持つ。具体例を示す。「～ないでください」という項目を庵（他）（2000）などで調べると、「話し手の気持ちを表す表現：命令・依頼・勧誘」というセクション内で記述されており、具体的には「ある行為をしないことを依頼する場合は「～ないでください」「～ないでくださいませんか」「～ないで（くれ）」の形になります」（ibid:150）と記述されている。日本語教科書においても「ここでたばこを吸わないでください」という表現とともに導入されており、禁止を表す構文として取り上げられている。しかし、実際の使用状況はどうであろうか。本書を参照すると、「～ないでください」の前に出てくる動詞として、1) する、2) 言う、3) 忘れる、4) 心配する、5) 思う、6) 使う、7) なる、8) 考える、9) 見る、10) 出すが挙げられている。さらに、実例を観察していくと以下のような用例に出会うことが多い。

1. 歩いて帰れますから、気にしないでください。
2. そんなに悲観的にならないでくださいよ。
3. 嫌なことは早く忘れましょう。これを機に男性恐怖症にならないでくださいね。
4. 作業手順が全くはっきりとしない場合でも心配しないでください。
5. そんな寂しい事言わないでください。
6. 夕食には栄養バランスのとれた手料理も忘れないでください。

日本語教育の現場において禁止を表す構文として導入される「～ないでください」というのは、実際の言語使用を観察した場合、禁止よりは、配慮表現であったり、念押しを表す表現として用いられることが多く、実際の言語使用の実態が反映されていないことが分かる。

次に2つ目の機能語に対する調査ということに関しては、内容語については、既述の Tono et al. (2013) のほかに寺嶋 (2009)、松下 (2010)、李 (他) (2015) などで包括的な調査がなされている。しかし、機能語に関するコーパス基盤の調査は、堀 (他) (2009) などの考察があるものの、膨大な人手チェック作業が必要になるため、研究の絶対量としてはまだまだ少ないと言わざるを得ない。機能語の調査が大変な理由としては、次の2点が考えられる。1つ目に、機能語に関しては内容語に比べ、繰り返し使われることが多く、

その分、チェック対象となる用例の数が多い。2つ目に、機能語の場合、分析者が意図したゴミが混入されることも多く、データクレンジングに手間がかかる。ただ、本書が利用した「中納言」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)という検索エンジンの場合、品詞情報に基づく項目指定ができることや複数の形態素列を指定した検索ができるため、作業効率は向上していると言える。こうしたツールの改善と本書のような資料集の充実化により、今後の教育文法の研究において、コーパス研究が活性化されることを期待したい。

#### データベース

松下達彦 (2010) 「日本語を読むための語彙データベース」

(<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/LTVJ/index.html>) (2015年8月閲覧)

李在鎬・砂川有里子 (2015) 「日本語教育語彙表」(<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV.html> / <http://jreadability.net/jev>) (2015年8月閲覧)

#### 引用文献

TONO Yukio, YAMAZAKI Makoto, MAEKAWA Kikuo. (2013) *A Frequency Dictionary of Japanese*. Routledge.

小野正樹・小林典子・長谷川守寿 (2009) 『コロケーションで増やす表現 Vol.1』 くろしお出版.

寺嶋弘道 (2009) 「日本語教育語彙を選定するための統計的指標－尤度比検定、カイ2乗検定、イエーツの補正公式の特徴－」『Polyglossia (立命館アジア太平洋研究センター紀要)』 17: 71-83.

堀恵子・荒川みどり・小池恵己子・小林佳代子 (2009) 「日本語能力試験出題基準の〈機能語〉を対象としたコーパス調査－目標言語使用領域での課題遂行に必要な項目を検証する－」『2009年度日本語教育学会春季大会予稿集』 194-199.

(2015年4月24日受付)